

■●受験対策ミニ講座 9号■●

11月となり、季節の移り変わりも速く感じられますが、皆さんのところの紅葉の進み具合はいかがですか？ 本格的な寒さに向けて、栄養と休養をしっかりとることが肝要です。基本的なことですが、手洗い・うがいの習慣をつけ、インフルエンザの予防接種なども受けておくと安心ですね。

「社会理論と社会システム」は、社会学の基礎的な知識に関する科目です。難解な言葉もありますが、社会学の対象は個人、家族、集団、地域、社会・・・まさに、社会福祉の対象であり、自殺、いじめ、ひきこもりなどの現代社会の諸問題が出題範囲です。様々な理論とその提唱者も頻出です。

第9問《社会理論と社会システム》—————

〔28回19〕社会集団に関する記述のうち正しいものを1つ選べ。

- 1 ゲマインシャフトとは、本質意思に基づく結合が解体した、近代以降の社会集団である。
- 2 インフォーマルグループとは、メンバーの親密な相互関係を通じて形成される集団である。
- 3 第一次集団とは、家族や親族などの第二次集団とは異なる、会社や学校などの社会集団である。
- 4 コミュニティとは、特定の関心を共同して追求するために設立された、人為的な機能集団である。
- 5 アソシエーションとは、地理的・文化的な地域性を結合要素とした社会集団である。

■Plus Column・・・・・・

【試験センター発表の“出題基準”を確認しよう！】

試験委員が問題を作成するときに使う「出題基準」が、試験センターのホームページから発表されています。「大中小」の項目に分かれ、「中項目は試験の出題内容となる事項であり、試験問題はこの範囲から出題される」と書かれています。例えば、上記の〔28回19〕は、まさに中項目・小項目の内容がそのまま問題となっていることがわかります。

「項目」にそって各科目の枠組みを理解し、出題傾向を押さえておくと、見通しがもて少し楽になります。全科目で有効ですが、特に、苦手科目に取り組む時に、とても役立ちます。

例えば「社会調査の基礎」。この分野にあまりなじみがない人にとって、難解な専門用語を一から理解するのはとてもたいへんなことですが、出題項目には調査に関する知識のほかに、「倫理」「個人情報保護」「ITの活用」があります。これらは、社会福祉士の倫理綱領の学習などで、聞いたことのある言葉ですね。“なじみの項目”を確実に押さえておくことで、「0点」となることを避けることができます。

出題基準、出題項目チェックで、苦手科目も“克服”しましょう。

〔28回19〕の正解と解説—————

社会集団に関する記述のうち正しいのは 2。用語と一緒に、その言葉の提唱者も記憶に残しておきましょう。

1×

ゲマインシャフトとは、本質意思に基づく結合が解体した、近代以降の社会集団である。ゲマインシャフトではなく、ゲゼルシャフトの説明になっています。これは、『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』を著したF. テンニースによる概念です。

2○

インフォーマルグループとは、メンバーの親密な相互関係を通じて形成される集団である。インフォーマルグループは、「ホーソン実験」を行ったG. E. メイヨーによる概念です。

3×

第一次集団とは、家族や親族などの第二次集団とは異なる、会社や学校などの社会集団である。第一次集団ではなく、第二次集団の説明になっています。シカゴ学派の社会学者C. H. クーリーによる概念です。

4×

コミュニティとは、特定の関心を共同して追求するために設立された、人為的な機能集団である。コミュニティではなく、アソシエーションの説明になっています。アソシエーションとは、利害関心に基礎を置く社会集団のことです。R. M. マッキーヴァーによる概念です。

5×

アソシエーションとは、地理的・文化的な地域性を結合要素とした社会集団である。アソシエーションではなく、コミュニティの説明になっています。コミュニティとは、共属感情に基礎を置く社会集団のことです。R. M. マッキーヴァーによる概念です。